

エピソード17

「特別支援学級に行かせたい んです」



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験が
あります。
エデュサポネットのファシリテーターです。



小学校の熟年の先生に、
中堅だった頃の経験をお聞きします。

特別支援教育がまだ始まったばかりの頃、
小学校で特別支援教育コーディネーターを
担当していたときのことです。

通常学級の担任から、学級の保護者から
「在籍を特別支援学級に変更したい」という
申し出があり困っている、と相談を受けました。





担任の先生は、どうして
困っていたのですか。

担任の先生は、そのお子さんについて「多少発達の
凸凹は見られるが、通常学級でやっていける。

却って通常学級の集団の中で、他の子どもと
一緒に学習していく方が、効果的なのでは
ないか」と考えていたのです。





先生と担任の先生はどうしたのですか。

保護者と何回も話し合いを重ねました。
その保護者はとても教育熱心で、発達障害について、私たち以上に勉強されていました。

途中からは、保護者が相談していた発達障害者支援センターの先生にも参加していただき、管理職も入って話し合いがもたれました。





その後のことを聞かせてください。

そのお子さんは、次年度から
特別支援学級に在籍を変更しました。

私たちは、保護者と支援センターの先生に
定期的に授業を参観していただき、助言を
受けながら、具体的な支援内容を検討しました。





この経験から、先生が感じたことを聞かせてください。

はじめは保護者の態度がとても頑なに思えて、どう対応したらいいものかと悩みました。

でも支援センターの先生から「保護者自身の不安がとても大きいのだと思うよ」と聞き、不安に寄り添えるような対応をすることが、とても大切だと思うようになりました。





その後の、保護者やお子さんの
様子を教えてください。

保護者もお子さんも、とても安心して
学校生活を送っているように感じました。

また、支援センターの先生の助言からは学ぶ
ことがたくさんあり、とても勉強になりました。
他の子どもたちにもいい効果があったのです。





なみちゃんの一言

- 保護者は、子どもが学校生活で、適切な支援が受けられることを望んでいます。
- どのような場面で、どのような支援を望んでいるのか、しっかりと話し合い、互いに納得できることが大切です。
- 専門機関と連携し、専門家から学ぶことも必要ですね。

お・し・ま・い



イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)